

Digest of Science of Labour

労働の科学

2 0 2 3

May

Vol. 78, No. 5



紙粘土の作品／菅沼 緑

特集

よりよい職場環境づくりに取り組む企業の実践(2)

女性の思いをカタチにする働き方を実現／ユーザックシステム株式会社
イベント業界を先駆ける働き方変革への挑戦／株式会社ホットスケーブ
高齢者や障害のある人のモノづくりの喜びをサポート／株式会社さくらほりきり

巻頭言

凡夫の思い込み
福成雄三

連載

労研アーカイブを読む ⑧7
椎名和仁

漂流者たち—クミジヨの肖像 ②6
本田一成

ILOインド南アジア産業保健通信 ⑤
川上 剛

凡夫の安全衛生記 ⑦5
福成雄三

つれづれなるままに ⑩
千葉百子

労働の科学

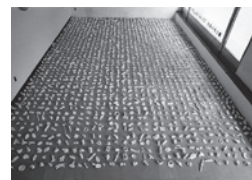
2023
May
Vol. 78, No. 5

巻頭言 俯瞰 (ふかん)

凡夫の思い込み

福成 雄三 [公益財団法人大原記念労働科学研究所 特別研究員] 1

表紙作品：菅沼 緑「紙粘土の作品」
材料：紙粘土
会場：ときわ画廊（東京・神田）
年度：1973年
撮影：菅沼 緑



より良い職場環境づくりに 取り組む企業の実践(2)

女性の思いをカタチにする働き方を実現

ユーザックシステム株式会社 5

イベント業界を先駆ける働き方変革への挑戦

株式会社ホットスケープ 9

高齢者や障害のある人のモノづくりの喜びをサポート

株式会社さくらほりきり 14

Series

ILOインド南アジア産業安全保健通信 (5)

若年労働者への支援 川上 剛 20

「#教師のバトン」で伝わる (23)

教職員の過酷な勤務環境 藤川 伸治 23

凡夫の安全衛生記 (75) (最終回)

「凡夫」とその思いを振り返る 福成 雄三 27

Series

- 漂流者たち クミジョの肖像 (26)
『クミジョ白書2021』(3) 本田 一成 30
- 労研アーカイブを読む (87)
疲労研究の発展 椎名 和仁 32

Column

- つれづれなるままに
1冊の本との出会いから
『毒の水—PFAS汚染に立ち向かったある弁護士の20年』を読む 千葉 百子 38
- 自由と想像 (5)
彫刻に向かって 菅沼 緑 44
- 演劇が描く「働く人々」
『炎の人』
炎のように鮮烈なゴッホの生涯を描いた名作 編集部 46
- BOOKS
『地域新電力 脱炭素で稼ぐまちをつくる方法』
カーボンニュートラル推進による地域の活性化 椎名 和仁 48
- 『ストーリーで学ぶ安全マネジメント ある安全担当者の苦悩と成長』
安全の基礎を学び、実践につながる書 井上 枝一郎 49
- 『産業医・産業保健スタッフのためのよくわかる産業保健の法令と実践』
産業保健を学ぶ人の必携の書 圓藤 吟史 50
- 『LGBT はじめての労務管理対応マニュアル 実際の相談例をもとに解説!』
今、企業に求められるLGBT対応を徹底解説 編集部 51
- 労働科学のページ 52
- 次号予定・編集雑記 64

凡夫の思い込み

福成 雄三

鉄鋼会社に約40年間勤め、労働安全衛生管理の企画などの業務を担当したほか、関係会社の経営にも携わりました。その間に取り組んだ課題毎に「凡夫の安全衛生記」として執筆し、75回にわたって本誌に掲載してもらいました。初回(2016年、71巻10号)に書きました通り「労働衛生、労働安全、健康管理の：分野で奮闘されている方々の発想を膨らませることにつながればと思つて」執筆したつもりです。そうなつたでしょうか。

安全衛生管理に関わる中で、心掛けてきたことがいろいろとあります。その一つに、関係者との知識・情報・問題意識・見通し等の「共有」があります。特に新たな施策を展開するときには欠かせません。管理監督者やスタッフを含めた実務を担う現場第一線の人たちは言うまでもなく、経営層などまで対象に考えていました。説明(個別や会議などで)、教育(内容に応じた対象層別の知識提供)、啓発(幅広い系統的な情報提供)などさまざまな手段を用い、重層的に取り組みます。筆者自身の力でできることには限りがあり、関係する人たちの力を頼りにして安全衛生管理を進めようとしたということだと思います。

安全衛生管理の施策には、「やらせる」「守り、守らせる」「徹底する」といったように、強制力を感じさせる印象を持つ

ことがあります。事業者の責任で実施するのだから当然だという考え方もありますが、適当でない場合があると思います。現場第一線の人たちが、実効性に疑問を持つたり、矛盾を感じたり、過度に精緻だったり、負荷が大きかったりしては、形骸化を生み、成果に結び付きにくくなります。施策そのものの多面的な検討は当然のこととして、現場第一線の人たちの気持ちを掴むための「共有」が欠かせません。「巻き込む」といった感じでしょうか。「現場でヒヤリングをして、現場の意見をキチンと反映しているから大丈夫」という声が聞こえてきそうですが、現場第一線の人たち(実行者や適用対象者)の立場に立つという点で足りないところはないでしょうか。主体性を尊重できているでしょうか。いくら(理論的に)正しいことでも、受け入れられる(実効が上がる)とは限りません。

現場第一線の人たちは、組織や組織で決めたことには従順さを示す面がありますが、表面的には「取り組んでいる」ことになっていても、単に「処理されている」だけかもしれません。実施記録だけがキチンと整えられていることもありそうです。現場第一線の判断・行動に期待する施策は、納得感を活かす形で、長期的展望の下で考えたいものです。経営者から現場第一線の人たちまで「なるほ



ふくなり ゆうせい
公益財団法人大原記念労働科学研究所
特別研究員(アドバイザリーボード)

ど」「こんな風にしたらいいか」「面白そうだ」などといった受け止めが、実効の上がる取り組みにつながると思いません。安全衛生管理以外の組織マネジメントや、労働科学分野などの研究成果を現場第一線で活かそうとするときにも当てはまるでしょう。

ハード面の対策による安全衛生水準の向上を目指すとともに、上述のようなことも考えながら、40数年間過ごしてきた。人として命と健康を大切にしたいという素直な気持ちを大切に、慮りながら、無駄のないマネジメントに結びつく取り組み方を志向したいと今でも思っています。このような経験的「凡夫の思い込み」の続きを本誌で紹介させてもらうことがあるかもしれませんが、その折には、ご笑覧の上、ご意見をいただければ幸いです。



俯瞰 ぶんかん